

2022年度事業計画案(委員会別)

総務 委員会 委員長: 安藤洋

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|---|---------|----------|---|
| Visionに関連する事業 関わり続ける(Open Community) | | | |
| 事業1)公益財団法人としての組織運営への対応【基本方針】1, 8, 9【重点施策】II(h)(p) | | | |
| 将来方向を見据えた諸規程・基準の継続的見直し 関係委員会との連携 | 通年 | JSAF事務局 | ガバナンスコード対応を基準とした、公益財団法人として相応しい主要会議体の運営と、それを実行する運営体制の整備・強化。 |
| コンプライアンス研修の実施 | 2023年1月 | JSAF事務局 | JSAFコンプライアンス研修の継続的実施を目指す。JSC主催研修の利活用検討。 2022年度研修内容の録音・録画を行い、次年度以降の活用を検討する。 |
| ガバナンスコードへの対応 | 通年 | JSAF事務局 | スポーツ団体ガバナンスコードへの対応(自己説明・公表、2021年度適合性審査受審結果を踏まえ)に万全を尽くす。(パークス法律事務所による支援継続) 自己説明で宣言した2022年度実施事項の完遂。(利益相反規程制定、加盟団体規程制定へ向けた検討、人材採用・育成計画作成へ向けた検討、等) |
| 定期表彰 | 2023年1月 | JSAF事務局他 | ・JSAF組織活性化 |
| 事業2)会員管理新システム運用を通じた加盟・特別加盟団体・会員向けサービスの継続的向上【基本方針】1,8,9【重点施策】II(h)(k) | | | |
| 会員管理新システム運用を通じた加盟・特別加盟 団体・会員向けサービスの継続的向上 | 通年 | JSAF事務局 | ・JSAF組織活性化及び財政健全化の観点から継続対応。 ・会員増強PJ検討結果連盟会員規程への反映、及び会員管理システムへの反映検討。 |
| 事業3)JSAF公認・後援(加盟・特別加盟団体主催)行事における適正運営の継続的実施【基本方針】1,8,9【重点施策】II(h)(l) | | | |
| 加盟(特別加盟)団体が主催するレース等の行事の 公認・後援・安全管理対策の徹底 主催者保険の付与 | 通年 | JSAF事務局 | JSAF公認大会に対する主催者保険の付保徹底 安全管理の対策の徹底を目的として、事故情報のJSAF内共有をはかる。 |
| 事業4)JSAF事務局業務の効率化の推進【基本方針】1,8,9【重点施策】II(h)(i) | | | |
| 会議のペーパーレス化 オンライン会議の推進 | 通年 | JSAF事務局 | 【JSAF事務局、コンプライアンス委員会、利益相反管理委員会、倫理委員会等事務局機能と総務委員会の役割分担の明確化検討。JSAF事務局体制強化検討の中で対応。】 |
| <備考:反省点等> | | | |

財政 委員会 委員長: 松田一隆

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|---|----|-------------------------|--|
| Vision Open Community/Easy Accessに関連する事業 | | | |
| 事業1)基本方針8(グッドガバナンス) 重点施策II(h)(k) | | | |
| 1. 適切な支払・立替手続きの確保 | 通年 | 基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定 | ・各専門委員会から日々上がってくる支払・発注の申請の内容確認を通じ、公益財団法人に求められるコントロールシップの質の向上に努める。 ・JSAF事務局の事務の円滑化はコントロールシップの質を高めることにつながる。ことから、事務局と協力して支払、会計処理等に関する事務手続きの改善にあたる。 ・源泉徴収関係の確認、添付された証憑の妥当性についての検証を継続する。 ・足元の収支状況についての情報提供を促進する。 |
| 事業2)基本方針8(グッドガバナンス) 重点施策II(h)(l) | | | |
| 2. 適切な予算執行と会計報告の推進と管理 | 通年 | 基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定 | ・JSAF事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に関し、評議会・理事会等への報告の適時性及び透明性の確保を向上させる。 ・JSAF事務局における経理会計事務の体制強化を支援し、帳票類の整備を推進させる。 ・2021年に整理した課題の優先順位に沿って経理・財政面における体制整備を促進する。 |
| 事業3)基本方針5(ブランディング・マーケティング・広報) 基本方針8(グッドガバナンス) 重点施策II(h)(i) | | | |
| 3. 健全な財政基盤の確立 | 通年 | 基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定 | ・JSAFとして会費・寄付金・賛助金等の取入ソース拡大の検討がなされ、新しい専門委員会等が立ち上がるなか、JSAF事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、財政面での管理体制の整備を行う。 ・各委員会の事業促進が承認された方針・計画に基づいて円滑に実施できるよう財政施策面からの支援を行う。 |
| 事業4)基本方針8(グッドガバナンス) 重点施策II(h)(i) | | | |
| 4. 中長期的な事業推進を前提とした事業収支管理と会計処理の適性確保 | 通年 | 基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定 | ・Visionや重点施策に基づき各委員会が推進する事業内容の理解に努め、円滑な予算の執行と資金配分に努める。 ・各種監査に対しては適切かつ迅速な対応を行い、収支相償等に関する指摘やアドバイスを得た場合はコントロールシップやガバナンスの向上に反映させる。 |
| <備考:反省点等> 上記を含むJSAFとしての組織横断的な財政面の課題検討は、財政健全化プロジェクトの取り組みとして進めることとする。 | | | |

事業開発 委員会 委員長: 平松 隆

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|---------------------------|------------|------------|---------------------------------------|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業1) | | | |
| JSAFグッズのネットショップ・システムの新規構築 | 4月 | JSAFホームページ | グッズ購入時の時間の簡略化に伴う会員サービス向上と売り上げアップ |
| 事業2) | | | |
| JSAFグッズの拡充 | 4月から年間を通して | JSAFホームページ | JSAF会員・一般セラーへのJSAFの認知度と親近感のアップ |
| 事業3) | | | |
| 企業とのコラボ商品制作 | 4月及び9月 | 45RPM店舗 | 一般セラーへのJSAFの認知度と親近感のアップ |
| 事業4) | | | |
| カレンダーの制作・販売 | 12月から | JSAFホームページ | JSAF会員・一般セラーへのJSAF及びセーリングの認知度と親近感のアップ |
| <備考:反省点等> | | | |

広報 委員会 委員長: 柳澤廣信

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--|-----------------------|----|--|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業1)もっと強くなる High Performance | 関わり続ける Open Community | | |
| J-SAILINGの刊行 2022年度の競技報告を中心に、JSAF社会・事業活動をまとめたイヤーブックを年度末に刊行。会員、スポンサー、関係者に配布。またポーションや国体等のイベント機会でも一般の方にも頒布し、啓蒙に努める。 | 年度末 | | ・スポンサーにNT活動を報告。理解を深めていただき、継続的に応援・支援してもらう。 ・会員にもレース活動、JSAF事業活動の理解を深めてもらい、応援・支援を得る。 ・一般の方も来場されるイベントで頒布することで、セーリングへの理解深掘を図る |
| 事業2)もっと強くなる High Performance | もっと身近になる Easy Access | | |
| セーリング情報の発信・管理 ・NT情報の発信。リリースの制作、配信(オリンピック強化委員会と協業) セーリング競技の理解促進を図るプレスディの実施。 ・その他連盟の事業活動やポーション等関連事業の情報発信。 ・ホームページでの情報提供。 | 通年 | | ・セーリング競技、連盟事業情報を社会に発信することで、 ⇒既存会員には連盟活動への理解深掘を図る ⇒一般に向けて情報発信することでセーリングへの関心を喚起し、新しいファンの獲得を目指す。 |
| 事業3)関わり続ける Open Community | もっと身近になる Easy Access | | |
| JSAFホームページ管理・運営 ・NT選手競技活動、JSAF事業・各委員会の活動をタイムリーに情報提供する。 ・各委員会、JSAFメインサーバー利用中の加盟団体のコンテンツ更新やサイト構築のサポートを行う。 ・事務局、総務委員会とも協業しセキュリティ強化対策を行う。 | 通年 | | ・会員・関係者に対しJSAF活動の理解を促進し、応援・支援を得る ・社会一般にもセーリング競技・JSAFの理解啓蒙を図り、セーリングに関心を持ってもらえるきっかけとなる。 |
| 事業4) | | | |
| <備考:反省点等> | | | |

環境 委員会 委員長: 代行 永井真美

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|----------------------------------|------------------------|---------------|--|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業1)環境支援事業【基本方針】6 | 【重点施策】II (c) (g) | | |
| 環境キャンペーン ①全日本大会への環境補助金事業 | 通年 | 各全日本レース開催ハーバー | * 今年度より環境活動を必須条件とし、見える化により活動を強化 * 外部に向けてもSNS等での発信増加、NFの中でのリーダーシップを確立 * スポンサー企業の支援継続および新規スポンサー企業の開拓 |
| 環境キャンペーン ②各地、上記以外補助金事業 | 通年 | 各開催地 | * 補助金支給により環境活動の拡充および活性化 * 外部に向けてのSNS等での発信の強化 * スポンサー企業の支援継続および新規スポンサー企業の開拓 |
| 事業2)環境支援事業【基本方針】6 | 【重点施策】I (a) II (c) (g) | | |
| 環境イベント企画、参加 | 通年 | 各開催地 | * 海洋環境の現状の把握 * 環境の意識の普及、向上 * 広くセーラー以外の一般市民も巻き込み環境を切り口にセーリングの普及にも寄与。 |
| 環境啓蒙ツールの拡充 | 通年 | 環境委員会内各開催地 | * 環境活動の普及、支援、活性化 |
| 事業3)環境支援事業【基本方針】6 | 【重点施策】II (c) (g) | | |
| 使い古したセールの有効活用 (Workshop、バッグ製作販売) | 通年 | 国体会場、及び各地 | * 環境意識の向上 * 脱炭素化に寄与 * JSAFのブランド化 * 広く一般市民への普及 |
| 事業4) | | | |
| <備考:反省点等> | | | |

レディーズ 委員会 委員長: 富田 三和子

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--|-------------------------------|--|--|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業1)チャイルドルーム開設 | | | |
| 未就学児の子どもを持つ女性選手・役員・指導者が、大会に安心して参加できることを目的としチャイルドルームを開設する | 未定 9月29日～10月4日 未定 未定 | 千葉市稲毛ヨットハーバー 千葉市稲毛ヨットハーバー 未定 江の島ヨットハーバー | 団体では親戚に訪れた保護者のお子さんも預かることにより、セーリングのファン拡大にも効果が望める (全日本選手権大会で実施する予定 艇種別団体と調整中) (江の島オリンピックウィークで実施する予定) |
| 事業2)第5回レディーズ委員会主催情報交換会 | 12月に予定 | | |
| 女性が、生涯セーリングに親しむことができるための具体的な方策を話し合うことを目的とし、各団体の意思疎通を図る | | スポーツマンクラブ | それぞれの団体において、女性会員の比率をアップ ハイブリッドで開催することで全国の水域から参加 |
| 事業3)マッチングシステムを開始 | 通年 | | |
| 主に大学を卒業する予定の学生がセーリングに継続して親しめるように、各県連や艇種別団体に紹介するシステムを確立する | | 主にオンライン | 卒業する前の段階で、セーリングを継続できる場の見直しを持つ |
| 事業4) | | | |
| <備考:反省点等> | | | |

eSailing 委員会 委員長: 尾形 依子

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|-----------------------|-------------------|----|---------------|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業1)eSailing普及 | eSailingプロモーション活動 | | |

| | | | |
|---|---|-------------|--|
| セーリングイベント、大会等でのプロモーション活動 | 通年 | オンライン(開催会場) | ・一般の方向けPRすることでeSailingの普及よりセーリングファン拡大 ・現役セーラー(Jr.ユース、高校生、大学生)や指導者のニーズに合わせ活用法やイベント紹介・体験会を実施することで各団体での水平展開による普及拡大 ・オンサイトによるイベント企画運営(ポートショー、ノルウェーオーシャンフェスティバル、ワールドカップ等) |
| 「オープンエントリー練習会」企画運営、PR日曜 20:00からの練習会の開催 SNS等を活用し、ルール、戦略戦術の紹介 日本VIRクラブの練習会の紹介と連携 | 通年 | オンライン | ・練習できない環境(悪天候や風待ち等)やミーティング時の効果的練習ツールとしてルールや戦略・戦術を学びセーリング競技力向上効果 ・セーリングの活動から一度離れた経験者が再び活動する際に気軽に依られる環境の提供による会員復活効果 ・学生の卒業、転勤、子育て等セーリング活動に関わる機会が減っても、eSailingを通じセーリングに関わり続ける環境の提供による会員離れ抑制効果 |
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業2) eSailing強化 | ・イベント企画開催 ※eSailing Japan cap開催、ネーションズカップ参戦準備支援 | | |
| Japan cap 開催・支援 JSAF主催大会としての開催準備、支援 | 8~9月 | オンライン | 全日本としてのeSailing大会開催によるeSailing競技力向上およびSNS等メディアで紹介することでeSailing情報およびeSailingを通じセーリング普及拡大の相乗効果 |
| ネーションズカップ参画支援 海外の情報収集、WSとの連携支援 | 10月~11月 | オンライン | 世界選手権に日本として選手派遣によるeSailing競技力向上およびSNS等メディアで紹介することでeSailing情報およびeSailingを通じセーリング普及拡大の相乗効果 |
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業3) eSailing大会運営関係普及拡大 | ・レース運営体制拡大に向けた施策検討 | | |
| 運営人員拡大施策 レースセット、リザルト(SAIRANKS)、オンライン会場(Discordサーバー)での運営について、レースに参戦しながら各ポジション運営者を体験(実践)し新規運営人員拡大を図る | 通年 | オンライン(開催会場) | eSailingレースの種類、レース(大会)開催数の拡大によるeSailing普及、eSailing競技力向上およびセーリングに関わり続ける効果 |
| 事業4) | | | |
| <備考:反省点等> | | | |

ルール 委員会 委員長: 増田 開

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--|-------------------------------|---------------------|--|
| Vision に関わり続ける 川に関連する事業 | | | |
| 事業1) ルール関連資料の翻訳・発行 | 【基本方針】4、9 | | |
| 競技規則であるRRSとWorld Sailing規程の一部、World Sailingの発行する試行規則や、競技規則の公式解説であるケースブック、コールブックと規則42解説、Q&Aとラビッドレスポンスコールなど、World Sailingの発行するルール関連資料とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。 | World Sailingからの公開の都度 | - | セーリング競技の根幹である競技規則と規則解説を日本語訳して、国内セーラーに提供する。 |
| World Sailing発行のジャッジ/アンパイア向けマニュアル等とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。 | World Sailingからの公開の都度 | - | 国内レースの質の維持・向上を目的とし、国内ジャッジ/アンパイアのレベル維持・向上を図る。 |
| 事業2) 国際ジャッジ・アンパイアの育成 | 【基本方針】4、9 【重点施策】III(m) | | |
| 国内IJ/IU候補者に海外レース等を経験させるための機会獲得支援と渡航費補助を行う。 | 都度 | - | 日本人IJ/IUを継続的に輩出することで、JSAFの情報収集力の向上と、JSAFとしての世界での地位向上を図る。 |
| アジア諸国のIJ/IU候補者のJSAFが主催する国際大会への来日支援のため渡航費補助を行う。 | 都度 | - | 特にアジア諸国など海外のジャッジ/アンパイアの育成にも貢献することで、JSAFとしての世界での地位向上を図る。 |
| 国内で開催される国際大会において、その主催団体からJSAFによるジャッジ・アンパイアの推薦枠が与えられた場合に、国内IJ/IU候補者から選考して派遣する。 | 都度 | - | 日本人IJ/IUを継続的に輩出することで、JSAFの情報収集力の向上と、JSAFとしての世界での地位向上を図る。 |
| JSAFからWorld Sailingに推薦するIJ/IU候補推薦者選定のためのIJ/IU候補推薦委員会を開催する。 | 7月 | オンライン | 日本人IJ/IUを継続的に輩出することで、JSAFの情報収集力の向上と、JSAFとしての世界での地位向上を図る。 |
| JSAFがリモートで選任されたWorld Sailingの委員でもある委員2名をWorld Sailing年次総会に派遣する。渡航費全額を奨励精算する。 | 11月 | 未定 | IJ/IU育成やルールに関するWorld Sailingの意思決定と活動に対するJSAFとしての貢献を果たし、JSAFとしての世界での地位向上を図る。 |
| 事業3) ナショナルA級ジャッジ/アンパイア講習会 | 【基本方針】4、9 | | |
| A級ジャッジ認定講習会の開催: 国体開催予定地など3-4箇所で開催する。 | 未定 | 未定 | 国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルA級ジャッジを養成する。 |
| アンパイア更新講習会の開催: 海上実技研修を必要とするためアンパイア制大会の機会を利用して開催する。新型コロナの影響等により前年度開催分も含めて開催機会が十分に確保できなかった場合には、更新期日を超えての追加開催も検討する。 | 未定 | 未定 | 国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルアンパイアを養成する。 |
| アンパイア認定講習会の開催: 海上実技研修を必要とするためアンパイア制大会の機会を利用して1-2回開催する。 | 未定 | 未定 | 国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルアンパイアを養成する。 |
| ジャッジ・クリニックの開催 | 1月~3月 | 全国各地8箇所程度、及び、オンライン | 国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルA級ジャッジの更なるスキルアップを図るとともに、ナショナルB級ジャッジにA級へのステップアップを支援する。 |
| NJNU実績管理システムの設計・仕様検討 | 通期 | - | NJNU育成マネジメントや大会派遣の公平性の向上、NJNU管理業務負担の軽減等を可能とするWebサービス/DBシステムの設計。2023年度の開発(外注)を目指す。 |
| 事業4) ナショナルB級ジャッジ講習会の開催 | 【基本方針】4、9 【重点施策】III(f) | | |
| 新規NJ-B認定講習会と認定試験を実施する加盟団体・特別加盟団体、試験問題と講習用補助資料を提供する。認定証発行やデータベース入力など認定管理業務を行う。 | 加盟団体・特別加盟団体による開催の都度 | - | 初級ジャッジを養成する加盟団体・特別加盟団体を支援し、国内レースの質の維持・向上を図る。 |
| 事業5) 競技規則の普及 | 【基本方針】2、4 【重点施策】III(o) | | |
| 指導者・選手向けルール講習会の開催: 1月~3月に主に初級選手やその指導者を対象としたルール講習会を開催する。 | 1月~3月 | 全国各地10箇所程度、及び、オンライン | 特に初級選手やその指導者へのスポーツマンシップの普及と、スポーツマンシップの根幹であるルール理解を促進する。ルールに関連したゲーム性の観点からセーリング競技の魅力を伝える。 |
| 外洋レース関係者(ジャッジ・運営関係者を含む)向けのルール講習会・意見交換会等の実施 | 都度 | 全国(主催団体要望会場) | 1. 講習希望団体(ヨットクラブ)におけるルール関心の確認 2. 原則、現地開催することでの関係強化 3. 外洋艇レース関係者用の一般向けの講習資料作成 |
| セーリング競技規則(RRS)同付則、連盟規程その他関連規則(WS規定、外洋規則2009含む)及び外洋特別規則等の外洋艇レース関係規則の周知、支援 | 通期 | - | 1. 外洋艇レースのルール面からの質の向上 2. 外洋艇レースへの理解促進 3. 外洋艇レースにおける安全対策意識の啓発 4. 関係規則からの外洋艇レースの種別特性の整理 |
| 事業6) 指導者育成支援 | 【基本方針】2、4 | | |
| 日本スポーツ協会の認定する指導者資格の更新条件であるJSAF主催講習会等としてルール委員会の主催する講習会を提供し、日本スポーツ協会データベースへの登録業務を代行することで、普及指導者委員会の進める事業を支援する。 | 都度 | - | 普及指導者委員会を進める指導者育成への貢献。 |
| Vision もつと強くなる 川に関連する事業 | | | |
| 事業7) アンパイア制レースの普及 | 【基本方針】2、4 【重点施策】III(f)、III(m) | | |

| | | | |
|--|--------------------------------|-------------|--|
| 加盟団体・特別加盟団体への働きかけによりメダレーズを含むアンパイア制フリーレースやチームレースの計画を促すと共に、アンパイア制大会実施のためのノウハウの提供やアンパイアの紹介などの支援を行う。新たにアンパイア制レース実施大会の継続的開催を計画する加盟団体・特別加盟団体を対象に、チームアンパイアを派遣して派遣費用を補助する。 | 都度 | 未定 | 世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え、将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、加盟団体・特別加盟団体とのアンパイア制レース推進のための中長期的なビジョンの共有と連携体制の構築を図る。 |
| アンパイア・クリニックの開催；選手・アンパイアを対象としたアンパイア制レースのクリニックを開催する。 | 都度 | 未定 | 世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、アンパイアのスキルアップ、アンパイア候補の発掘・養成、アンパイア制レースの普及を図る。 |
| 事業⑨ 外洋艇レース普及支援 | 【基本方針】2、4 【重点施策】Ⅲ(f)、Ⅲ(m)、Ⅲ(o) | | |
| 外洋艇レースの2028五輪の種目化に向けた活動を、ルール・ジャッジ等の面で引き続き支援する。(ショートハンドレース) | 通期 | 全国(主催団体要望地) | 1. パリ五輪の種目化期待で生まれた関心の持続拡大(採用活動の喧伝) 2. ショートハンドレースにおけるルール環境の確認すること関係者にルール面からの助言が期待される。 |
| 外洋艇推進グループの関係組織と連携した現場での普及策の検討(レース、安全、計測当) | 通期 | 全国 | 1. 外洋艇レース関係組織の横断的連携による効率的な普及策策定(シナジー、競争効果への期待) 2. 新しい普及体制(外洋艇レース関係人口の増加) |
| 全てのVisionに関連する事業 | | | |
| ルール委員会の開催 | - | | |
| 委員会事業を遂行するために年3回の委員会(オンライン1日x2回、オンサイト2日x1回)を開催する。 | 6月、12月、3月 | オンラインx2回、未定 | 委員会事業の円滑な遂行 |
| ルール・ジャッジ・アンパイア情報の展開 | - | | |
| ルール委員会WEB、加盟団体/特別加盟団体の代表者のメーリングリスト、及び、A級ジャッジのメーリングリストでの情報展開と、そのためのメーリングリストと名簿の保守・管理・窓口業務 | 都度 | - | ルール・ジャッジ・アンパイアに関するJSAFとしての会員サービスの実施 |
| <備考・反省点等> | | | |

レースマネジメント 委員会 委員長: 大庭 秀夫

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|---|---|--------------|--|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業① レースオフィサーセミナー(新規認定 講習) | ・TOKYO2020で培われた競技運営の知見を広く普及する。 ・レースオフィシャルズの資格認定を通して、レースマネジメント・レース運営のスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。 | | |
| NRO認定セミナー 講習・試験を実施する。(JSAF RO規程に基づく措置) | 11月 | 東京 | AROを対象にしたNRO認定セミナーを1回実施する |
| ARO認定セミナー 講習・試験を実施する。(JSAF RO規程に基づく措置) | 5回実施 | 全国各水域 | NROを補佐し、水域レベルのレースを主体的に運営し、将来のNRO候補を養成するため、AROセミナーを全国5会場で開催する。 |
| LRO認定セミナー 講習を実施する。(JSAF RO規程に基づく措置) | 10回実施 | 全国各水域 | レース運営初級者向けのLROセミナーを全国10会場(各水域1回)で実施。 |
| 事業② レースマネジメントクリニック | ・クリニック(講習)の開催をとおして、レースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。 | | |
| NRO更新のための義務講習になっているレースマネジメントクリニックを実施する。(JSAF RO規程に基づく措置) | 5回実施 | 全国各水域 | レースオフィシャルズを対象にしたレースマネジメントクリニックを5会場で開催する。(国体を控えた水域等4回、外洋1回)なお、NROは資格維持のために4年に1回は受講しなければならないことが規程で定められている。 |
| 事業③ 国体進捗事業 | ・国体開催について円滑な準備態勢の構築を図る。 | | |
| ・国体委員会の研修会にレースマネジメント委員会(国体小委員会)として参加し、開催に向けての準備調整について情報交換をする。 | 6月の予定 | 東京 | ・開催地の特性を考慮したレース公示、航海指示書の作成等に協力し、大会を成功に導く。 ・各水域のレースマネジメント委員を国体に派遣することで、全国のレース運営のレベルアップを図る。 |
| 事業④ 外洋レース/大型艇レースの全国統一運用 | ・ホームページの整備 ・連絡活動(IRCLレースファイルの配信など) ・外洋レース/大型艇レース運営に関する情報整理・提供 ・外洋タフハンドレース運営に関する情報整理 | | |
| 適宜 | | | 外洋レース/大型艇レースの全国統一運用を普及させるために、外洋系加盟団体、特別加盟団体にレース/大会運営に関する情報提供、共有を行う |
| 事業⑤ IROクリニック・セミナーの開催 | - | | |
| IROクリニック | 2022年12月 | 江の島 | ・IRO資格取得に向けて、レースマネジメントの知識を得る ・WSから派遣される講師との情報交換 |
| IROセミナー | 2023年2月1日 | 江の島 | ・IRO認定に必要な講義と試験を行い、現在日本に2名しかいないIROの増強を図る |
| 事業⑥ JSAF主催レースRO派遣 | - | | |
| JSAF主催レースへレースオフィサー派遣 | | JSAF主催レース開催地 | ・JSAF主催レース レースオフィサー派遣 ・JSAF主催レース レースマネジメントポリシーの統一化を目指す ・JSAF主催レース レースマネジメントレベル向上 |
| 事業⑦ 国内国際レース調整の実施 | - | | |
| 国内国際レースへレースオフィサー派遣 | | 国内国際レース開催地 | ・国内国際レース レースオフィサー派遣 ・国内国際レース レースマネジメントレベル維持 ・ROレースマネジメント経験値向上 |
| 事業⑧ 公認・後援する大会開催に関しての審査 | - | | |
| 公認・後援する大会開催に関しての審査 | 2022年4月～2023年3月末まで | | 公認・後援等が規則に則り適正に行われているかを審査する。 |
| 事業⑨ 全国レースマネジメント委員会の開催 | - | | |
| 全国委員会の開催 | 1回実施 | 未定 | ・レースマネジメント委員会の事業実施に係る事項を協議する。 ・各水域からの報告及び意見交換。 |
| 委員長・小委員長会議の開催 | 1回実施 | 関東近郊 | ・レースマネジメント委員会の事業実施に係る事項を協議する。 |
| <備考・反省点等> | | | |

ワンデザインクラス計測 委員会 委員長: 中村和哉

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|---|------------------|----|--------------------------------------|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業① | ・Ⅱ. 関わり続ける(h)(i) | | |
| 委員会基本活動 | 通年 | | ・上記事業の推進を管理し推進すると共に、委員会全体の課題に対して取り組む |
| ・定例委員会の開催、および関係会議への出席、HP掲載内容の管理 ・クラス協会との業務委託契約の締結 ・日本セーリング連盟公式計測員規程 改定案の整備 ・RRS 50.1(c)のクイック・リリース式トラピーズ・ハーネスの調査及び、情報提供する(2023年1月1日より発効される予定) ・個人用浮揚用具(PFD)について、クラス規則での適用状況を調査する | | | |
| 事業② | ・Ⅱ. 関わり続ける(h)(i) | | |
| 規則管理 | 通年 | | WSから発行される計測関連の情報を提供する |
| ・IMマニュアルおよび計測に関連したWS文書を翻訳し提供することにより計測員の資質向上を目指す。 ・競技者を中心としたクリニックを開催する。 ・ERSの翻訳(修正、更新) | | | |

| | | | |
|---|---|---------------|---------------------------------|
| 事業3) 公式計測員管理 ・各クラス協会の新規クラス公式計測員の育成事業支援 ・ERSの講習会を実施する ・艇種別加盟団体において公式計測委員の設置されていないクラスを支援する | ・ II. 関わり続ける(h)(i) III. もっと強くなる(m)(n) 通年 | | ・公平で公正な計測を確保するため公式計測員の資質向上・養成する |
| 事業4) IM養成支援 ・IMセミナーの企画、実施 ・IM推薦、IM候補者への指導・支援 ・WSの情報を翻訳し提供する ・国際レベルの計測技術を維持する | ・ II. 関わり続ける(h)(i) III. もっと強くなる(m)(n) 通年 | | ・IMの養成と計測技術の向上を支援する |
| 事業5) IHC管理 ・セールメーカーでのIHCの運用を監査する ・セールメーカーの要請に基づきIHCステッカーの手配 | ・ II. 関わり続ける(h)(i) 通年 | | ・IHC制度の管理と運用を行う |
| 事業6) 国体計測 ・国体等の大会計測の実施を主催団体と調整し実施の支援を行う ・テクニカル委員会および計測準備作業のマニュアル化を進める | ・ II. 関わり続ける(h)(i) III. もっと強くなる(m)(n) 通年 | 栃木県(千葉県)、鹿児島県 | ・国体等における大会計測の精度を管理し公平公正な計測を行う |
| <備考:反省点等> | | | |

国際 委員会 委員長: 望月宣武

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--|----|-----------------------|---|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業1) 方針3, 4, 9 重点施策m, o 国際機関ポスト獲得・国際会議派遣 【具体的活動内容】 ・World Sailingのミッドイヤー会議、年次会議及び臨時会議等に委員等を派遣する。 ・ASAF(アジアセーリング連盟)の年次総会及び臨時総会に委員等を派遣する。 | 通年 | アブダビ等 | ・国際社会における日本の地位向上をはかる。 ・国際機関の意思決定において、情報を収集し、他国と協調・連携し、アジア及び日本の利益を反映させる。 ・収集した国際機関や他国NFの情報を連盟の常任委員会・専門委員会等に共有し、各部署の活動に役立ててもらう。 |
| 事業2) 方針9 重点施策なし スポーツ外交事業 【具体的活動内容】 ・JICAの民間連携や外務省SFTを活用し、コーチ派遣又は選手・コーチ招聘を行う。 | 通年 | パラオ サモア ほかアジア各国 | ・他国との親交を通じて国際社会における日本の地位向上をはかる。 |
| 事業3) | | | |
| 事業4) | | | |
| <備考:反省点等> | | | |

医事科学 委員会 委員長: 高橋正哲

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--|-------------------|---------|---|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業1) セーリングスポーツの普及・発展(一般への認知向上) 普及指導委員会、国体委員会、オリンピック強化委員会との連携 アウトリーチ活動の推進 | 通年 | | |
| 事業2) セーフティセーリングの推進(セーリングの普及) 選手の健康管理、外傷予防に関する相談への対応 競技会における安全体制の指導、助言 安全講習及び公認コーチ講習に講師の派遣 | 通年 | | |
| 事業3) セーラーの育成と強化 選手の健康管理、外傷に対する相談への医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養師、トレーナーによる対応。LINE、メールによる対応。 海外派遣選手に対する医学的指導、および選手、コーチからの相談・要望に対するLINE、メールによる対応。 | 通年 | | |
| 事業4) 社会との連携 ワールドセーリング医事委員会との連携(メディカル・インフォメーション) | 適宜 | | WhatsAppにより、各ナショナルメディカルチームと連携 |
| 事業5) 組織体制の整備・強化 委員の増員、委員会組織の見直し | 適宜 | | 委員会内に専門部会(医科、歯科、薬剤、看護、栄養、トレーナー、アンチドーピング)の設置 |
| 医事科学委員会の開催 | 5月、11月(2022年は+1月) | | 医事科学委員の連携、新委員の任命 |
| 事業6) アンチドーピング対策 アンチドーピング小委員会が対応 | 通年 | | ドーピング検査に対するNAとして参加 選手、コーチ、監督、指導者へのアンチドーピングの指導・啓蒙 |
| 事業7) トレーナー部会 2022年度医事科学委員会トレーナー部会連絡会議 | 2022年11月頃を予定 | オンライン開催 | トレーナーの情報共有および連携強化 |
| 事業8) 公認医学・パラメディカル資格の推薦、取得の推進 | 各資格申請時期 | | 公認スポーツドクター、公認スポーツデンティスト、公認スポーツファーマシスト、公認スポーツ栄養師、公認アスレチックトレーナー養成講習会受講のJ-SPOへの推薦および更新の手続き 公認スポーツドクター推薦は毎年2、3人予定 公認AT、1人推薦予定 |
| <備考:反省点等> | | | |

普及指導 委員会 委員長: 川北達也

| |
|-----------|
| <備考:反省点等> |
|-----------|

オリンピック強化 委員会 委員長: 前園 昇

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--|--------------------------|---------------|--|
| Vision)もっと強くなる)に関連する事業 | | | |
| 事業1) 2024パリオリンピックに向けた選手強化 | | | |
| 強化対象選手の海外主要大会(種目別ワールド、種目別欧州選手権等)への派遣 | 各主要大会開催前の現地練習期間を含む大会開催期間 | 各主要大会開催地 | 各選手のポジションを確認すると共に、海外のライバル選手の成長度合いの確認と代表選手が実施すべき改善点の把握。 |
| 強化対象選手に対する国内練習会・合宿の実施 | 随時 | 国内各地 | 帆走スキル改善、フィジカルパフォーマンス向上 |
| 事業2) 2022アジア大会に向けた環境整備 | | | |
| アジア大会直前の現地練習会および現地での競技環境整備 | 9月 | 中国・杭州 | 複数のメダル獲得 |
| 事業3) 2028ロスオリンピックを含む次世代アスリートの発掘・育成・強化 | | | |
| 有望なユース選手に対する「HOPE育成プログラム」の実施 | 約1週間/月 | 和歌山NTC、沖縄(冬季) | 偏りのない知識とスキルを備えた、シニアになって世界トップレベルが狙える選手の輩出。 |
| 有望なユース選手の海外主要大会(種目別ユースワールド等)への派遣 | 各主要大会開催前の現地練習期間を含む大会開催期間 | 各主要大会開催地 | 各選手のポジションを確認すると共に、海外選手との違いの確認と参加選手が実施すべき改善点の把握。 |
| 国内での練習会、合宿、コーチ派遣等の実施 | 随時 | 和歌山NTCを含む、各水域 | ・主要大会前後の合宿では、大会前のスキル・チェックと大会後のフィードバックにより、選手への気づきの提供。 ・その後の練習会にて、認識された改善点を克服。 |
| 事業4) 強化活動に関連した外部団体・委員会との連携による強化環境の構築 | | | |
| JSAF各委員会(レースマネジメント、ルール、普及指導等)の専門スタッフ参加による、高レベル環境下での練習会・合宿の実施 | 随時 | 和歌山NTCを含む、各水域 | 実践さながらのコース設置、オンザウォータージャッジなどを練習会に採り入れることによる、選手の課題抽出およびスキルアップ。 |
| 事業5) 外部団体等との連携によるパフォーマンス評価の実施 | | | |
| フィジカル、GPSTラッキングや、風、潮流等、レースに勝つために必要な情報を提供してくれる外部企業・団体との協業 | 随時 | - | 選手のフィジカルコンディション、帆走技術、コース戦略などの定量的な分析や、潮流等の傾向を把握してレース練習を行うことによる、レース・パフォーマンス向上が図れる。 |
| 事業6) 選手が持つべき社会的責任の啓蒙活動の実施 | | | |
| コンプライアンス、危機管理、ドーピングコントロールなどの情報の入手と選手・コーチへの提供 | 随時 | - | リスクの認識と正しい知識の選手・コーチとの共有により、選手のパフォーマンスを正しく成績に反映させることが可能。 |
| Vision)もっと身近になる)に関連する事業 | | | |
| 事業7) 選手の発信力向上活動 | | | |
| 普及マーケティング戦略プランに基づき、戦略チームとの協業による、選手の発信力向上トレーニングを実施 | 5-6回程度 | - | セーリングの普及に寄与。 |

| |
|-----------|
| <備考:反省点等> |
|-----------|

ジュニアユースアカデミー 委員会 委員長: 中村公俊

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--------------------------------------|----|-------------------------|--|
| Vision)に関連する事業 | | | |
| 事業1)もっと身近になる(Easy Access) | | | |
| テキストの発行 | 通年 | | シーマンシップは、競技力や勝負を超えて、社会生活に通じる人間力を啓発するツールとして有効であるため、競技者だけでなく海に関心や興味がある人たちに広くセーリングに誘う効果を期待できる。 |
| 事業2)関わり続ける(Open Community) | | | |
| アカデミーコーチバンクの構築 | 通年 | | ・アカデミーコーチが目標を目指して競技力を高めるために経験してきた多岐にわたる情報を埋没させないよう、レガシーとして次世代へのノウハウとして生かす効果が期待できる。 ・競技者がセーリングに関わり続けるきっかけ作りとして期待できる。 |
| 事業3)もっと強くなる(High Performance) | | | |
| アカデミーコーチの派遣 | 通年 | ジュニア及びユースセイラーが活動する全国の水辺 | アカデミーコーチが派遣された全国の水辺で活動するジュニア・ユースセイラーのシーマンシップへの理解が深まるとともに、セーリングへの意欲が高まり、競技力を向上させるきっかけ作りとして期待できる。 |

| |
|-----------|
| <備考:反省点等> |
|-----------|

キールボート強化 委員会 委員長: 金子純代

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|---|---------------|-------|--|
| Vision)に関連する事業 | | | |
| 事業1)基本方針:2、重点施策:Ⅰ-a | | | |
| 大学対抗&U25マッチレース選手権2023開催に向けた支援協力活動 | 2023年3月予定 | 愛知県予定 | 25歳以下の若手セーラーが全国から集まり、キールボート艇に接して色々な艇種に幅広く活動できる |
| 事業2)基本方針:3、重点施策:Ⅱ-d、Ⅲ-k | | | |
| 米国ニューポートNYC主催のグローバルチームレースへの日本代表チーム選考・派遣及び支援 | 2022年7月21-24日 | 米国 | チームレースというジャンルに、日本チームとしてスキルアップを計る |
| ネイションズカップの支援 | 2022年(未定) | 未定 | 若手セーラーが世界のヨットレースに接し、他国のセーリング環境に接することができる |
| 事業3)基本方針:2、重点施策:Ⅱ-f | | | |
| 伊藤園女子キールボートレース運営サポート | 11月 | 神奈川県 | さまざまな艇種の女性セーラーを集めて、女性セーラーのスキルアップを計る |
| 事業4) | | | |

| |
|-----------|
| <備考:反省点等> |
|-----------|

国際大会等準備 委員会 委員長: 中村隆夫(予定)

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|------|----|----|---------------|
|------|----|----|---------------|

| 事業計画1 強化関連支援事業 JSAF方針関連性(基本方針)3【重点施策】Ⅲj,k,l,n,p | | | |
|---|---|---|---|
| 事業1) オリンピック強化委員会への活動支援 | - | - | - |
| 事業2) レースマネジメント委員会への活動支援 | - | - | - |
| 事業計画2 普及支援事業 JSAF方針関連性(基本方針)2,7【重点施策】I a,b,II e,f,Ⅲk,o | | | |
| 事業3) eSailing委員会への活動支援 | - | - | - |
| 事業4) 団体委員会への活動支援 | - | - | - |
| 事業計画3 環境支援事業 JSAF方針関連性(基本方針)6【重点施策】II c,g | | | |
| 事業5) 環境委員会への活動支援 | - | - | - |
| 事業計画4 DEI支援事業 JSAF方針関連性(基本方針)3,7,9【重点施策】I a,II d,e,Ⅲo | | | |
| 事業6) 障がい者セーリング推進委員会への活動支援 | - | - | - |
| 事業計画5 広報支援事業 JSAF方針関連性(基本方針)2,4,5【重点施策】I a,II f,Ⅲm,p | | | |
| 事業7) 広報委員会への活動支援 | - | - | - |
| 事業計画6 国際大会等支援事業 JSAF方針関連性(基本方針)2,3,4,9【重点施策】II d,e,Ⅲj,m,o | | | |
| 事業8) 江ノ島オリンピックウィーク兼アジアカップの運営資金マネジメント支援 | - | - | - |
| 事業9) ハンザ・ワールド兼アジアパシフィック選手権の運営資金マネジメント支援 | - | - | - |
| <備考:反省点等> | | | |

外洋常任 委員会 委員長: 中澤信夫

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--|--|--------------------|---|
| VisionXXIに関連する事業 | | | |
| 事業1) セールナンバー普及拡大事業 全国の大型艇・外洋艇にセールナンバーをつける 外洋艇のセールナンバーの適用範囲を広げ、組織の拡大強化に資する。 その実務を行うために艇登録事務局を設置する。 セールナンバー普及拡大に合わせ、各地のハーバーや泊地での安全・ルール関係の活動を支援する | 基本方針2、8、重点施策I(a)、II(f)、(g)、(h)、(i) 通年 | 全国 | セーリング組織の拡大・強化 |
| 事業2) オフショアレース支援と世界選手権派遣事業 2028オリンピック種目候補のキールボート・チームレースとオリンピック種目復活を目指すオフショアレースとその前哨戦の世界選手権を見据え、国内長距離オフショアレースおよびダブルハンドを中心とするショートハンドのオフショアレースの一層の活性化をはかると共に、世界選手権への派遣を支援する。 ・世界選手権に選手を派遣する。(国内選考レース開催を含む) ・JSAF共同主催のバルレース等外洋レースを支援し、世界で戦える選手を育成する。 ・多くの外洋レースに、ダブルハンド・デビジョンを設定していく。 World Sailing、IRC、ORC等の各種会議への派遣、国際的な情報交換、情報収集 ・オフショアレースのための資格取得、サバイバルトレーニングなどのトレーニング、通信基盤などの整備、促進、実施を進める。 | 基本方針3、重点施策Ⅲ(j)、(m)、(n)①③④⑤、(o) 通年 | 国内 欧州など世界選手権開催地 | オリンピックを見据えた外洋レース・キールボートレースのレベルアップ |
| 事業3) 加盟団体との関係強化事業 外洋加盟団体との関係強化を目的として、外洋加盟団体長会議の開催による連携強化を図る 外洋加盟団体長会議を年2回開催する。(9月、1月) 外洋常任委員会を開催する。(年7回程度) 外洋艇の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会会議を支援する。 | 基本方針4、6、8、9、重点施策II(c)、(f)、(o) 随時 | 東京及び当番地域 | 加盟団体との連携強化(安全、環境啓発を含む) 外洋のレース、艇登録事務等の円滑な推進 |
| 事業4) 外洋艇安全確保推進事業 外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進 ・外洋艇の安全確保、安全情報の交換 ・海上情報通信手段の発展に対応して通信組織の立ち上げと実施・検討を支援する ・ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望する ・レースでの安全確保の指導 ・万が一のための主催者保険加入 | 「安全」について基本方針もしくは重点施策に入れていただくことを希望 通年 | 各地 | 海上での安全確保 海上での情報通信、安全技術などの最新のものを踏まえた安全知識の普及 ヨットに合わない法制度の改善 |
| <備考:反省点等> | | | |

外洋計測 委員会 委員長: 川合 紀行

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|-------------------------|----|----|--|
| VisionXXIに関連する事業 | | | |
| 事業1) IRC証書発行 | 通年 | | 国内メインレーティングであるIRC証書(以下:証書)を発行して、各地で開催されるレースへの参加者の為に公平・公正な証書を維持し、参加者が楽しめる環境をつくる。計測員を派遣してより精度の高い証書の発行をはかる。テクニカルコミッティーによる入力データと出力データのチェックを行い、より正確なデータとする。証書・申告書等のデータを管理する。申し込み受付から、証書発行請求書まで取得者をサポートする。 |
| 事業2) ORC証書発行 | 通年 | | ORC証書(以下:証書)を発行して、各地で開催されるレースへの参加者の為に公平・公正な証書を維持し、参加者が楽しめる環境をつくる。計測員を派遣してより精度の高い証書の発行をはかる。テクニカルコミッティーによる入力データと出力データのチェックを行い、より正確なデータとする。証書・申告書等のデータを管理する。申し込み受付から、証書発行請求書まで取得者をサポートする。 |
| 事業3) | | | |

| | | | |
|--|---------|----|--|
| 普及活動 | 通年 | | IRC主体のデュアルスコアリングシステムの推奨を勧め、ルールの使用や運営等の温度差を無くし、より普遍的な共通認識を持つ為に主催者の要請に基づきメンバーを派遣する。レース運営に必要なTCRリストの提供。クラブ等で行われるレースに関して、現在JSAFでの艇登録制度の改正も検討されている事を踏まえ、RORCで試験運用されている。IRC GOの日本国内での採用を考慮した検証・クラブ等への啓蒙等の予算も考える。 |
| 事業4) | | | |
| 規則等の管理・運用 | HPの活用 | 通年 | ルールおよび関連する規則等に注意を払い、改正された場合には直ちに入手し、必要があればこれを適宜翻訳して日本語版を発行して告知する。これらの公示方法としてHPIに掲載する。HPへのバナー広告掲載でHP運用の資金確保等を図る。 |
| 事業5) | | | |
| 計測機材の管理維持 | | 通年 | 東海・関東 |
| 事業6) | | | |
| 計測技術の継承 | | 通年 | |
| 事業7) | | | |
| 国際会議への参加 | 10月・11月 | | フランス・イギリス |
| 事業8) | | | |
| JSAF専門委員会会議への参加 | 12月 | | 未定 |
| 事業9) | | | |
| 計測セミナー | 2月 | | 関東・関西 |
| 事業10) | | | |
| 外洋合同会議 | 2月 | | 未定 |
| 事業11) | | | |
| 委員会会議 | 通年 | | 基本はZoom |
| 事業12) | | | |
| IRCオーナーズ協会との協力 | 通年 | | |
| <備考・反省点等> ORC証書発行料に価格改定、ORC関連の各種ルールの整備、ORC申告の為の資料の整備等 | | | |

外洋安全委員会 委員長：大坪明

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--|---|----------------------|--|
| Visionに関連する事業 | | | |
| 事業1)外洋特別規定(Offshore Special Regulations)普及 | *外洋特別規定(Offshore Special Regulations)普及を目的として、規定の正しい理解と運用をはかる | | |
| 1.Offshore Special Regulationsの翻訳と国内規定策定 | 通年 | | 日本語訳版を発行することで、OSRへの理解普及促進を図る |
| 2.OSR解説講習会の実施および講師派遣 | 2023年2月および加盟団体の要求があれば | オンライン開催予定 | OSRの基本および改訂ポイントを、わかりやすくまとめた資料や実際の装備などを用いて解説することにより、OSRへの理解普及促進を図る |
| 3.SNSなどを利用したOSR内容解説 | 通年 | facebook上 | 実際のレース現場で体験したOSRへの理解普及促進を、SNSを用いてタイムリーにポイント解説することによりOSRへの理解普及促進を図る |
| 事業2)安全航行啓蒙 | *航行時の事故防止および被害拡大防止を目的として、会員の安全航行に対する知識と意識の向上をはかる。 | | |
| 1.安全週間の実施 | 2022年4月、2022年9月 | | 春と秋の2回、安全週間を設け、忘れがちな艇や装備の点検整備および乗員の訓練などを確実に実施するきっかけとして、安全航行に対する意識の向上を図る。 |
| 2.安全講習会への講師派遣 | 通年 | | 加盟団体からの依頼に応じて安全講習会へ講師派遣し、事故防止や安全航行に対する意識の向上を図る。 |
| 3.安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ | 通年 | | 国内未認可の装備品や無線機器などを日本国内でも使用できるように働きかけることにより、セーラーの安全性の向上や活動費用の低減などを図る。 |
| 4.船舶安全航行に関わる情報収集および発信 | 通年 | | (公社)日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員や日本小型船舶検査機構の「詳議員」に委員長が囑託し、関係官公庁との情報収集や上記諸法令改正の窓口として機能する。 |
| 5.事故報告書(外洋艇関係)の収集/分析、事故予防に関する情報発信 | 通年 | | 事故数や事故の内容を集計・分析し、事故防止や被害の最小化の課題をとりまとめる。 |
| 事業3)無線局の普及 | *JSAFの資産である海岸局チャンネルを利用し安全の確保やレース利用による便益性恒常を目的として、船舶局開局および海岸局加入数の増加をはかる。 | | |
| 1.無線海岸局の管理 *海岸局(VHF 71ch・74ch)の開設・継続・廃局認可審査 *JSAF登録艇以外の船舶局(VHF 71ch・74ch)の加入認可審査 | 通年 | | JSAFの資産である海岸局チャンネルの活用を促進し、レース主催者の利用による便益性や安全性の向上を図る。 |
| 2.無線船舶局の普及 *無線免許取得の補助(民間業者とタイアップして免許取得講習会費用割引) | 通年 | | 上記無線使用に必要な無線士免許取得時の費用低減。レース参加者の利用による便益性や安全性の向上を図る。 |
| 事業4)外洋合同委員会開催 | *外洋レースの全国均一化を目的とし、レース主催者(加盟団体)が適切なレース運営が行えるようにレース主催者(加盟団体)のスキルアップを図る | | |
| 規則改定やレースマネジメントのポイントを11つの会議にて実施。 | 2023年2月 | リアル(会場未定)&ハイブリッド開催予定 | レース主催者に関する4委員会(レースマネジメント、ルール、外洋計測、外洋安全)が合同で実施することにより、レース主催者(加盟団体)は必要な情報をワンストップで収集可能である。レース主催者(加盟団体)にとって、効率的かつ深掘りに繋がる情報収集の場となる。 |
| <備考・反省点等> | | | |

障がい者セーリング推進 委員会 委員長：高間信行

| 事業内容 | 時期 | 場所 | 期待する効果(成果)の概要 |
|--|--|----------------|---|
| JSAF方針関連性(基本方針2, 3, 5, 7)【重点施策】II(d)(x)(f), III(k)(m)(n) | | | |
| 事業1)パラリンピックにおけるセーリング競技の復活 | *パラ選手・コーチの育成及びJSAF公認大会開催に向けての環境整備しパラ競技の復活に寄与する | | |
| (a)WS主催のPDPへの選手、コーチ派遣 | 10月 | 広島 | 世界を目指す選手とコーチの育成と発掘が期待できる |
| (b)JSAF公認の全日本選手権、地方大会等開催 | 未定 | 未定 | JSAFとしてパラ選手の世界派遣、パラと一体化した活動展開、会費のあり方の検討 |
| (c)パラセーリング国際大会の日本開催 | 10月 | 広島 | パラリンピック競技種目復活、選手の日糧大会に向けてモチベーションを上げる効果 |
| (d)クラシファイアの育成 | 通年 | 未定(オンライン講習も有り) | 大会の国内体制充実、国際ネットワーク構築にも貢献、選手のプレセンス向上 |
| JSAF方針関連性(基本方針1, 2, 5, 6, 7, 9)【重点施策】I(a), II(c)(x)(f)(p), III(j)(k)(p) | | | |
| 事業2)障がい者セーリングの普及推進 | *セーリングはインクルーシブなスポーツであり生涯楽しめるスポーツとして普及活動に寄与する | | |
| (a)広報活動(JSAFホームページ活用) | 通年 | | 日本の活動状況を世界アビリティパラ復活に貢献 |
| (b)企業等と障がい者セーリングの体験会・研修活動実施 | 未定(年3回) | 未定 | インクルーシブセーリングの普及及びセーリングを応援する個人・企業・団体の拡大が期待できる。 |

| | | | |
|--|--|-----------|-------------------------|
| (c) 視覚障害者セーリング体験会実施 | 未定(年3回) | 岡山、三重、神奈川 | セーリングが誰もが出来る環境を整える |
| (d) 全スポ大会でのセーリング競技採用活動実施 | 通年 | 国体開催県予定県 | 障害者セーリングを通しての社会参加が期待できる |
| JSAF方針関連性【基本方針】3, 5, 7【重点施策】Ⅱ(d)(f)(h), Ⅲ(i)(m)(n)(o) | | | |
| 事業3) 障がい者セーリングにおける強化推進 | ・アスリートの強化育成及びコーチの育成環境の整備・提供をすすめ選手を取り巻く支援体制の構築に寄与する | | |
| (a) 強化種目の指定、強化フリートの指定し選手の国際大会での順位向上をはかる。 | 年5回程度 | 普及強化推進拠点 | 選手強化環境の構築、選手強化、コーチ育成 |
| 事業4) | . | | |
| <備考:反省点等> | | | |